

# 身近な生き物を守る－篠山市の取り組み－

(篠山市役所)

## 1. はじめに

メダカ、ドジョウ、サンショウウオ、カエル、ホタル、ササユリ・・・篠山の生き物のほとんどは、農地や里山に生息し、人々の暮らしのなかで生活を営んでいます。

篠山の生物多様性は、人が山や田んぼに入り、手を加えることで守られてきました。しかし、圃場整備により農作業の効率がよくなり、化石燃料を使用することで生活は豊かになった一方で、水路はコンクリート化され、山の手入れはされなくなり、篠山でも生き物の生息場所は少なくなっています。そのため、生き物に目を向ける機会は減り、大人も子どもも生きものへの関心が低くなっています。

篠山市在住で、霊長類学の世界的権威である河合雅雄氏の著書「少年動物誌」を基にした映画「森の学校」では、昭和初期の篠山の豊かな自然が描かれています。

その頃の自然豊かな環境を取り戻すため、平成25年、市の生物多様性の保全に関する方針を示した「森の学校復活大作戦－生物多様性ささやま戦略－」を策定し、市の主要施策として取り組んでいます。

平成26年度より、農林業に関する事務を所掌する農都創造部に「農都環境課」を新設しました。これにより関係部署との連携を強化し、農林業に携わる市民への普及啓発、水路改修を希望する地域団体に環境配慮型工法を提案するなど、一体的に生物多様性の保全に取り組んでいます。

## 2. 生物多様性の保全に関する取り組み

### (1) 市民への意識啓発「生物多様性促進活動補助金」

生き物の生息環境を守るため、休耕田ビオトープや江（掘り上げ）に年間を通して水を貯め、草刈等の維持管理を行う市民、また、生き物に関する普及啓発や環境整備を行う市民や団体に対して補助金を交付し、生物多様性の保全に関する取り組みを広めています。



### (2) 市民への意識啓発～身近な植物観察会～

田んぼの畦や里山に生息する身近な植物（カワラナデシコ、ヤブカンゾウなど）に目を向けてもらおうと、西紀北・藤坂地区での植物調査や市外での希少な植物生息地との比較などを通して、篠山市の植物の生息状況を学習しました。



### (3) 外来種から身近な生きものを守る

篠山市でも、ミシシippアカミミガメ、ブルーギル、オオキンケイギク等の外来種が、在来種の生息環境を脅かしています。

平成26年度より、篠山城跡において、ニホンイシガメの生息環境を保全するため、アカミミガメの防除に取り組んでいます。

平成27年度からは「農都ささやま外来生物対策協議会」を設立、行政・市民・事業者・大学が連携し、アカミミガメの捕獲・処分体制を確立しました。また、子どもと保護者を主対象とした外来魚捕獲体験イベントや外来種に関する注意喚起チラシを配布するなど、意識啓発にも取り組んでいます。

環境省の補助金により設立した「農都ささやま外来生物対策



協議会」は、市・市民・神戸大学・㈱自然回復から構成され、各専門分野（アカミミガメの防除及び処分・外来種に対する意識啓発）で連携しながら取り組みを進めています。

【篠山城跡堀におけるアカミミガメの防除調査結果】

	平成27年度 (全ての堀で実施)	平成26年度 (南堀のみ実施)	捕獲後の取扱い
アカミミガメ	496匹	326匹	冷凍・焼却処分
クサガメ	520匹	378匹	再放流
イシガメ	25匹	9匹	再放流

**(4) 農業分野における生物多様性保全対策**

農業従事者の高齢化や担い手不足により、生き物が豊かに生息する素掘り水路からコンクリート水路への改修が、各地域で行われています。そこで、生き物の生息環境を守るため、国の補助金を活用して水路改修を希望する地域団体に対して、環境配慮型工法の提案を行っています。また、生き物に関するアンケートや生き物マップの作成を通して、農業に携わる市民に生物多様性の保全に関する意識啓発を行っています。



**3. これからの取り組み**

**(1) 生物多様性に配慮した水路整備方針の作成**

「生物多様性に配慮した水路整備指針」を作成し、事業者を対象に環境配慮型工法の現地説明会・生き物調査を実施するなど、市内で実施する水路工事において、生物の生息環境を保全する取り組みを進めます。

**(2) 丹波篠山いきもの48 (TSI48)**

篠山の身近な生き物にスポットライトを当て、その大切さを知ってもらう・・・それが「丹波篠山いきもの (TSI48)」です。身近な生き物のイラストを作成し、小学生へのアンケート等により守りたい生き物48種類を選出、ポスター・Tシャツ等の作成や生物多様性フォーラムを開催し、意識啓発に取り組んでいきます。

